

日本 AEM 学会誌における投稿論文の執筆要項

Preparation of Papers for the Journal of the Japan Society of Applied Electromagnetics and Mechanics

英井 笑^{*1}(正員), 幕田 郁代^{*2}(学生員), 丹生 開史郎^{*3}

Emu EII (Mem.), Ikuyo MAGUDA (Stu. Mem.), Kaishiro NYU

These instructions provide basic guidelines for preparing camera-ready papers for the journal. All the instructions are written in Japanese except for this sample abstract. English abstract should be written here within about one hundred fifty (150) words. The readers who use Japanese not so fluently will see only the abstract, the figures and the tables. Therefore, the authors should always be careful to describe the essence of the paper clearly.

Keywords: applied electromagnetism, mechanics, journal, JSAEM, instruction, guideline.

事務局記入(20??年??月??日受付)

1 緒言

この執筆要項は、日本 AEM 学会誌に投稿される学術論文、技術論文、研究ノート、解説記事等に適用されるものであり、執筆サンプルを兼ねている。論文等の執筆における一般的な注意点として、日本 AEM 学会は機械系・電気系・材料系・原子力系などの幅広い分野の *discipline* を持つ会員が参加しているため、狭い専門範囲の用語をできるだけ避けた、平易な記述が望ましいことが挙げられる。日本 AEM 学会については <http://www.jsaem.gr.jp/index.html> を参照されたい。

2 用紙と割付け (レイアウト) について

用紙は A4 サイズ(210 mm×297 mm)とし、左右 20 mm, 上 30 mm, 下 27 mm の余白を置く。従って、本文領域は 170 mm×240 mm となる。本文、図、表および式は、原則として 2 段組に書き、文字数は 24 字×44 行×2 段 = 2112 字/頁とする。原則として字体は、和文は明朝体、英文は Times New Roman 体とする。学術論文及び技術論文の場合、ページ数は 6 ページを標準とする。研究ノートのページ数は 4 ページを標準とする。本文の文字サイズは 10 ポイントとする。その他はこのサンプル通りであるが、Table 1 に一覧として示してある。用いる文章の区切りは、カンマ “,” と区点 “.” である。

Table 1 Type sizes for electronically-submitted papers.

文字サイズ (ポイント)	明朝体 Regular	ゴシック体 Bold	斜体 Italic
9	英文概要 キーワード 表中の文字 参考文献 連絡先		英文文献 の出典
10	著者名・所属 本文 節題名 項題名 図表の題名	英文表題 章番号 章題名	節番号 項番号
14		和文表題	

2.1 表題等の書き方

表題部分は、冒頭に全段通しで記述する。記述内容は以下の通りである。

- 1) 表題・副題 (和文)
- 2) 表題・副題 (英文)
- 3) 著者名・所属・正員/学生員/非会員の別 (和文)
- 4) 著者名・正員/学生員/非会員の別 (英文)
- 5) 英文概要 (約 150 語, 10 行以内)
- 6) キーワード (英文, 5~10 語句)

また、連絡先を初頁初段の末尾に脚注形式で記入する。

2.2 見出しの書き方

章・節・項の見出しは行の左端より書く。書式はサンプルを参考にされたい。

連絡先: 英井 笑, 〒113-0031 文京区根津 1-4-6, 西京大
学理工学部電磁応用学科,
e-mail: paper@jsaem.gr.jp

*1 西京大学 *2 東南大学 *3 応用電磁気研究所

3 書き方のヒント

3.1 図表について

図及び表の大きさは、Fig. 1 に示すように横幅 80 mm (1 段の幅) を基準とする。大きな図の場合は、横幅 170 mm (全幅) にしてもよい。文書中に組み込む図は図中の字句も全て含めて解像度を高くする。

学会誌の印刷版はモノクロ印刷となる。このため、図表はモノクロ印刷でも判別可能なように作成すること。原稿はカラーで作成してもよいが、モノクロ印刷でも判別可能なように留意されたい。特に赤と青はモノクロ印刷では区別が難しいので注意が必要である。具体例として、Fig. 2 によってカラーとグレースケールの様子を参考にされたい。(a)はカラーの図であり、(b)は(a)をグレースケールにしたものであり、(c)はもともグレースケールで作成したものである。(a)では様子が分かりやすいが、それをグレースケールにした(b)は中央部の様子が不明である。当初から白から黒のグレースケールで作成した(c)では中央部の様子も理解しやすいと思われる。カラー印刷とする場合は、別途費用が発生する。なお、デジタル版は原稿のままなので、カラー版となる。必要であれば、モノクロ印刷用とデジタル用カラーの両方の原稿を作成してもよい。

図表は文中、上または下にまとめて置くことを原則とし、図表の横に空白ができて、その空白部には本文を記入してはならない。図、表と本文及び図、表相互の間は、1 行以上余白をとる。

図、表の題名及び図、表中の説明は、英文で記載する。Table 1 は便宜のため日本語で書かれているが、これは例外である。図、表中に用いる英文の最初の文字は大文字とし、本文と同程度 (10 ポイント(pt)) から最小でも 7 pt とする。図中の記号類は小さすぎて判別不能にならないようにし、複雑な記号類は大きめに描くようにする。これらの文字、記号類に関する指定は、読者が見やすいようにとの配慮であるため、遵守されたい。図、表の題名が 2 行以上にわたる場合には、行間を固定値 14 pt とする。

グラフ等においては、複数個のプロットを区別するために、線種 (実線、破線、点線、鎖線) や線の太さの違いによる識別や異なるマーカの使用による識別を行い、色のみによる識別は行わないようにする。したがって、本文中に色による線やマーカの指定・説明は、カラー印刷を指定した場合を除いて行ってはならない。

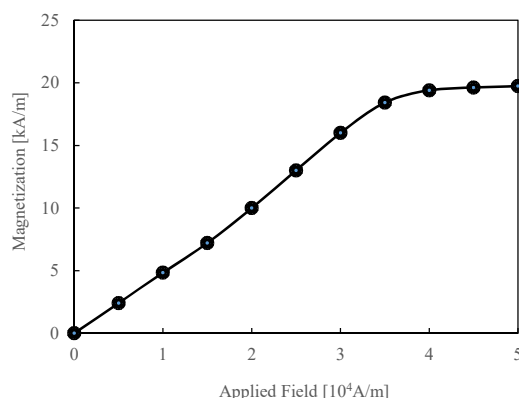


Fig. 1 Magnetization as a function of applied field.
The caption should be centered.

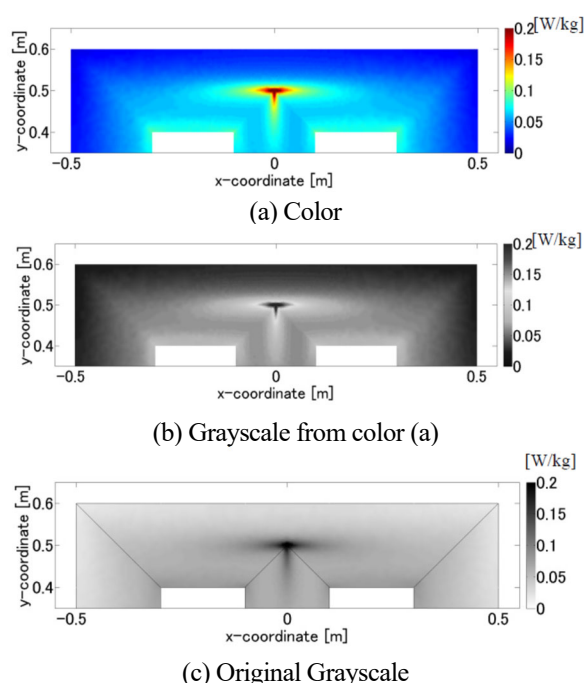


Fig. 2 Differences due to the color of the figure.

3.2 参考文献の引用と記述

本文中の文献番号[1]は、引用箇所にかぎ括弧を付けた番号を記入する[2,3]。参考文献は、サンプルのように末尾にまとめ、所定の書式に則って記述すること[4-7]。HP やオンライン情報等の参照の場合は、参照した日付を明記すること。

3.3 数式と記号・単位

3.3.1 記号・単位

量記号は斜体、単位記号は立体 (例えば B [T] のように) とする。単位は v [m/s]、1.8 m/s のように書

く。

3.3.2 数式

数式は、式(1)から式(3)のように、センタリング（中央揃え）し、右端に番号をつける。ベクトルは太字斜体、行列・テンソルは太字立体とする。（サンプルのように、数式にはセンタリングタブと式番号には右寄せタブの使用を推奨します。）また、式の前後には、0.5行以上の空白を必要とする。（設定は、「段落-間隔」の段落前0.5行と設定して下さい。数式が連続する場合、最後の数式の段落前後に0.5行を設定して下さい。）

$$E = mc^2 \quad (1)$$

$$\nabla \times H = j + \frac{\partial D}{\partial t} \quad (2)$$

$$\frac{d}{dt} x = Ax + Bu \quad (3)$$

4 結言

論文には結論があることが望ましい。結論は明確に述べ、英文 Abstract や第1章の表現を繰り返さないこと。単なる結果の羅列ではなく、成果の重要性や、そこからの発展性、関連する応用分野に言及すると良い。

付録・謝辞など

付録・謝辞が必要な場合は、最終章の後、参考文献の前に記述すること。研究スポンサーなどは、謝辞として記載する。

参考文献

- [1] 著者 A, 著者 B, 著者 C, 和文学会誌等の引用例, 日本 AEM 学会誌, Vol. 12, No. 1, p. 1024, 2003.
- [2] A. AuthorA, B. AuthorB and C. AuthorC, How to refer the English citations, *IEEE Transactions on Magnetism*, Vol. 88, No. 10, pp. 512-520, 2003.
- [3] 著者 D, 研究会等からの引用例, 電気学会リニアドライブ研究会資料, LD-03-218, 2003.
- [4] D. AuthorD, Reference paper from international conferences, *Proceedings of the 10th International Symposium on Applied Electromagnetics and Mechanics*, pp. 8-10, 2003.
- [5] 英井, 和文書籍の引用例, 伊江夢社, 2003.
- [6] E. AuthorE, Reference example of English books, AEM Press, New York, pp. 64-66, 2003.
- [7] 英井, 幕田, 丹生, 引用されるべき文献の一例, 第35回 MAGDA コンファレンス論文集, pp. 256-259, 2003.
- [8] 日本 AEM 学会, 日本 AEM 学会賞候補推薦のお願い, <http://www.jsaem.gr.jp/html/award-j.html>, (参照 2017-12-15).
- [9] International Organization for Standardization, How ISO develops standards, International Organization for Standardization, http://www.iso.org/iso/about/how_iso_develops_standards.htm, (cited 2017-12-16).
- [10] 著者 A, 著者 B, 著者 C, オンラインジャーナル（論文番号 e001）の例, 日本 AEM 学会オンラインジャーナル, Vol. 29, No. 1, e001, doi:10.14243/jsaem.29.1.
- [11] 著者 A, 著者 B, 著者 C, オンラインジャーナル（論文番号 e001）の例, 日本 AEM 学会オンラインジャーナル, Vol. 29, No. 1, e004, <https://doi.org/10.10552/jsaem.29.1.e004>.
- [12] 著者 A, 著者 B, 和文学会誌等の引用例(doiがある場合), 日本 AEM 学会誌, Vol. 25, No. 4, p. 316, 2016, doi:10.13456/jsaem.25.4.
- [13] 著者 A 他, 和文学会誌等の引用例(著者数が4名以上の場合), 日本 AEM 学会誌, Vol. 25, No. 4, p. 312, 2016.
- [14] A. AuthorA et al., How to refer the English citations, *IEEE Transactions on Magnetism*, Vol. 88, No. 10, pp. 512-520, 2003.
- [15] A. AuthorA et al., How to refer the English citations, *Journal of Artificial Organs*, Vol. 25, Issue 3, pp. 22-30, 2022.
- [16] IEC 60601-1, Ed.3:2005, Medical electrical equipment – Part 1: General requirements for basic safety and essential performance, International electrotechnical commission.